

科目名	運動学演習	担当教員	伊藤 俊輔※ 世古 俊明※ 隈元 庸夫※ 信太 雅洋※ 山田 恭平※ 山中 正紀※ 佐藤 公博※ 久保 勝幸※ ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-------	------	--

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	1年次	後期	3単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13ACE	②					

科目概要	骨、関節、神経、筋機能などの基礎的な知識を基に、ヒトの各種姿勢および歩行、起立、起居などの基本動作の理念型を理解し、様々な運動・動作・活動に対して観察・分析の仕方を学生同士での演習を通して学習する。更には、運動や動作の観察から人体の機能や構造に対する理解を深める。また、運動による各臓器・器官の反応（生体反応）、高齢者や個々の疾患に対する姿勢や動作の特徴についても理解を深め、運動機能の回復・予防などといった応用的知識を身につける。
学習目標	歩行、姿勢制御および運動学習、運動・動作分析の基礎を理解する。さらに、各課題演習により①運動・動作の基本的用語・表し方、②運動における力学の基礎、③四肢と体幹の運動、④姿勢制御等について人の日常の運動を理学・作業療法と関連づけ具体的に理解することを目標とする。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1-3	運動・動作分析	・運動・動作の分析方法、分析機器の概要 ・運動・動作における関節運動、筋活動	・運動・動作分析や機器の概要を理解する。 ・運動・動作分析における関節運動、筋活動について理解する。	山中
4-9	歩行	・歩行の空間的・時間的指標（歩行周期） ・歩行の関節運動学、筋活動、運動力学 ・様々な歩行（高齢者、小児、異常歩行）	・歩行の指標となる用語と歩行周期を理解する。 ・歩行時の重心移動を理解する。 ・歩行における関節運動、筋活動、運動力学を知り、正常歩行を運動学的に理解する。 ・小児や高齢者の特徴を知る。また、正常歩行と異常歩行の違いについて理解する。	隈元
10-15	姿勢・姿勢制御	・姿勢と重心の見方 ・運動制御の諸理論と姿勢の安定性 ・姿勢制御のメカニズム	・多様な姿勢を知り、姿勢と重心の関係や姿勢観察について理解する。 ・運動制御や姿勢制御システムの理論について理解する。	隈元
16-18	筋力	・筋の構造、機能 ・筋機能評価（筋活動、筋力など） ・筋力トレーニング	・筋の構造、機能的な特徴、収縮様式などについて理解する。 ・筋活動や筋力の評価、トレーニングについて理解する。	伊藤
19-21	運動学習	・運動と学習の関連（学習と記憶、運動技能） ・運動学習の諸理論、神経機構	運動学習を理解する。	山田
22-24	エネルギー代謝、運動処方	・エネルギー代謝、運動処方	有酸素運動と無酸素性エネルギー代謝、運動処方の原理について理解する。	信太
25-45	演習 1-9	以下の 1-7 項目の演習を実施する。 1. 運動学習課題 2. 立ち上がり動作 3. 歩行 4. バランス 5. 関節運動 6. 筋機能 7. 生体力学	・各演習項目における課題内容を理解をする。 ・各演習項目における課題内容を実施できる。 ・各演習を通して、演習結果をまとめ、考察できる。	伊藤 世古 隈元 山田 山中 佐藤 久保

評価方法	レポート課題 60%、筆記試験 30%、講義に対する姿勢 10%
課題に対するフィードバック	講義・演習内容の理解といった課題について、講義・演習中、講義・演習終了後に質問を受け、回答する(フィードバック)。 レポート課題、筆記試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	隈元庸夫・著『症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作』ヒューマンプレス、2017年 中村隆一、他・著『基礎運動学(第6版補訂)』医歯薬出版株式会社、2003年
参考図書	小柳 磨毅、他・編『PT・OTのための運動学テキスト』金原出版、2015年 小島悟、他・編『15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト理学療法・作業療法テキスト運動学実習』中山書店、2016年
学習の準備	1 (予習) 運動学の内容および教科書の該当箇所を熟読しておくこと(30分) 2 (復習) 授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと(30分)
オフィスアワー	月曜日～金曜日の10時～16時、その他在室時はいつでも可能。 (※複数教員が担当する科目であり、教員によって上記時間帯においても不在の場合もある)
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	伊藤俊輔・世古俊明・隈元庸夫・信太雅洋・山中正紀・佐藤公博は、民間病院で日常動作における理学療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 久保勝幸・山田恭平は、民間病院で日常動作における作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。